第43号
岩手県立江刺病院広報
はばたき
広報及び情報化委員会
平成29年1月

【基本理念】
私たち職員は、県営医療の根幹である「県民に平等な医療の恩恵を」の精神を受け継ぎ、患者さんに「誠実と医学で支える良質な医療」を提供し、地域の人々に愛される病院づくりを進めます。

年頭所感

院長　川村　秀司

新年明けましておめでとうございます。年々この挨拶の間隔が短く感じられるのは私だけでしょうか？今年も昨年持ち越した課題、さらに新たな課題を探りながら皆様と喜怒哀楽を共に前進したいと思っております。願わくは“怒”、“哀”は出来るだけ避けたいところです。さて、昨年の印象的であったことを若干述べてみたいと思います。まず初めに「診療報酬改定」ですが、一昨年度からの経営収支悪化により医療局から“収支1％改善”が提示されました。当院もそれを重く受け止め様々策を練ってきましたが、患者の減少等により思うように改善はみられませんでした。しかし、皆様の努力で収益単価は着実に上がってきておりますので、引き続き職員一丸となって取り組んでいきましょう。基本は患者さんを丁寧に“診る（看る）”ことに他なりませんので、これをしっかりと心に刻んでいれば何れ自ずと結果はついてくると思います。次に「地域医療構想」です。奥州市は現在年間約1,000人、月約83人の人口減少が生じています。そのような状況の中で2025年に向けて市の今後の病床の在り方が問われており、それに関連して自院の立ち位置を把握すべく検討を行っていく必要があります。加えて数年前から「地域包括ケアシステム」という概念が厚労省から発信されました。これは「重度な要介護状態」となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるもの」とされております。今までは病院で治療し終わったら家に帰られるという“病院完結型医療”でありましたが、これからは高齢社会となるため在宅、施設等を含めた地域全体で高齢者を癒し・支えるという“地域完結型医療”の転換を意味しております。団塊の世代の方々が後期高齢者となるかつてない高齢社会に突入するという2025年問題を目の前にしている我が国にとってはなくてはならないシステムであります。医療介護は地域住民にとっての安心の象徴であり、町づくりの中心となるものです。ありきたりでありますが地域の医療ニーズにきちんと対応することが基本であると思います。コミュニケーション、情報収集をしっかりと取り、近隣の病院、施設、及び開業医との連携・協働で地域医療を支えていきましょう。次に7月に行われた「摘時調査」ですが、皆様の御協力により返還は免れ、さらに12月に行われた「保健所立入り検査」におきましても大きな指摘はなく、機能評価の受審に向けての基礎が創り上げられていることが実感でき嬉しく思いました。今後も気を緩めることなく維持していきたいところです。嬉しい場面もありました。「医療局開庁記念球技大会」で野球部が1回戦突破したことであり、初回より大差を付けられ負けを覚悟しておりましたが、相手のエラーにも助けられみごと逆転勝利しました。

（次へつづく）

11月12日には当院のOB会がありました。100名を超す参加者で当院の歴史を振り返り、懐かしい人たちとの語らいのもと盛会に終わりました。7年振りでもあり準備の段階から時間がかかりましたが、当日も休日の中、参加・協力して頂いた職員の方々の尽力で成し得た会であったと感謝しております。ありがとうございました。

今年は「病院機能評価更新受審」という大きな目標がありますし、さらにその2ヶ月後には「電子カルテ導入準備」が始まります。各部署におきましてはさらに仕事を強いるかたちになりますが、お互い“思いやりの心”を持ち続けながら皆で協力し合い目標に向けて1歩1歩着実に成し遂げましょう。

最後になりますが我々医療人は患者さん、そのご家族との信頼関係で成り立っていることを忘れてはなりません。また、院内でのお互いの信頼関係の下でのチーム医療が不可欠です。「信頼」とは高い“能力”と優れた“人格”のもとで生まれ成長する、と言われています。“能力”は一朝一夕の短期間で培われるものではありません。常日頃の勉強、努力で培われるものです。“人格”もまた同様に常日頃の人とのコミュニケーション、連携・協働、自己反省から磨かれるものであると思っております。1人1人がこのことを心に秘めて望めば素晴らしい職場環境になることでしょう。それでは皆様の健康と幸せをお祈りし、今年も宜しくお願いいたします。

いわて国体「ボート競技」に参加して

院長　川村秀司

昨年10月1日から「**いわて国体・いわて大会**」が開催されました。東日本大震災後で開催が危ぶまれましたが知事の“オール岩手”の指揮の基、無事成功裏に幕が閉ざされました。　私は田瀬湖で行われたボート競技の審判員として参加させていただきました。天候の悪い中での試合でありましたが、決勝レースでの8杯レースは国体初であり、無事成功を収めたこと岩手県ボート協会にとりましては嬉しいかぎりです。なかなか休日も学会・研修会等で時間をみつけるのは大変でありますが、私にとってボート競技は心身共にリフレッシュできる大切なスイッチとなっており、ボートを通しての全国の人達との繋がりは医療関係者以外の方達と関わりを持つことで視野を広げる場にもなっています。皆さんもスポーツで体を動かしてリフレッシュしてみてはどうでしょうか？私が生きている限りではこれが最後の地元開催の国体でした。6日間留守（県の職務として）にしましたが、改めて皆様の御協力に感謝いたします。

（次ページ写真掲載）

2016 希望郷 いわて国体 2016 希望郷 いわて大会

【開催期間中、晴れたのは1日だけでした】

【↓国体初の8杯レース】

【↓全国の審判員と共に】

看護科標語大賞決定

看護科では、患者さんの安全・感染予防・看護の質向上に向け日々活動しています。今回、更なる向上を目指し標語を募集しました。

多くの標語が集まり、その中から看護師と特別審査委員が選び標語大賞が決定しましたのでご紹介します。

【看護の質評価委員会】

その目尻　下がれば上がる満足度

【セーフティマネージメント部会】

安全は　一人一人が　責任者

【看護感染管理委員会】

どこへ行く　エプロン・手袋　つけたまま

平成２８年度　院内業務改善発表会を開催

平成２８年１２月８日（木）１７時３０分から１９時３０分まで、当院の大会議室において院内業務改善発表会が開催されました。

各部門等で日頃、業務改善や工夫を進めた成果など、次の１１題の発表がありました。

参加した職員からは、それぞれの発表後に活発な質疑や意見があり、他部門の取組み等の情報を共有するなど、たいへん有意義な発表会になりました。

今回発表された演題は、今年度の所属長職員表彰の選考対象となっていますが、引き続き日常の業務改善等を推進していければ良いと思います。

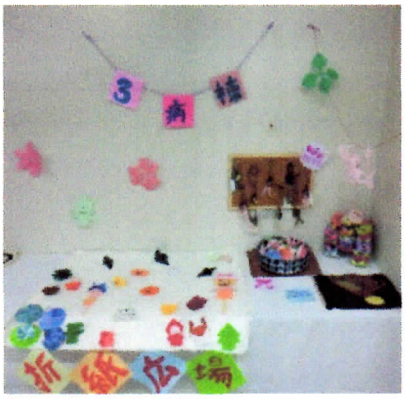
発表順	部門	提案テーマ
1	薬剤科	病棟での配薬業務（内服薬セット）について
2	臨床検査技術科	外来迅速検体検査加算件数増加への取り組み
3	栄養管理科	ちょこっと改善
4	透析室	透析室の感染対策の強化
5	看護科（外来）	外来業務改善～皮膚科診察室と内科受付窓口の検
6	看護科（手術室）	安全・安楽に配慮した術後衣の導入
7	看護科（３病棟）	TEAM武子の奮闘記～season II～３病棟の業務改善
8	看護科（５病棟）	マットの有効活用と褥瘡予防～体験して検討する
9	地域医療福祉連携室	連携室１年半を振り返って
10	事務局　医事経営課	医事経営課の役割りについて
11	事務局　総務課	１％収支改善等の取り組み（費用編）

江刺病院文化祭

11月1日・2日に毎年恒例の院内文化祭が会議室で開催され、職員による手工芸品、院内保育所の園児による心和む作品が展示されました。

また、一般の方々からも、心のこもった素晴らしい作品を多数ご出展いただきました。

文化祭は毎年11月に開催しており、一般の方からの出展も受け付けております。出展を希望される方は、病院事務局までご連絡ください。



クリスマスコンサート

１２月２２日に病院待合ホールにて、クリスマスコンサートが開催されました。

病院職員によるコーラス、院内保育所園児のかわいらしい歌、江刺第一中学校の生徒の皆さんによる素晴らしい合唱と楽器演奏が披露されました。最後はキャンドルが灯されるなか、会場にいた全員で「きよしこの夜」を歌い、患者さんたちと心温まるひと時を過ごすことができました。

平成２８年度永年勤続表彰祝賀会・保健医療功労者祝賀会が開催されました!

平成２８年１１月１０日（木）に、恒例の永年勤続表彰祝賀会と、小岡文志 県立病院名誉院長の保健医療功労者表彰祝賀会が、当院大会議室にて開催されました。

❀被表彰者❀

☆保健医療功労者（知事表彰）
小岡　文志　　県立病院名誉院長

☆岩手県職員表彰（勤続２５年表彰）
齋藤　淳智　　看護師長
菊池　美順　　主任看護師

☆医療局職員表彰（勤続20年表彰）
道又　聡　　主査診療放射線技師
小田島　智子　　主任薬剤師
畠山　一恵　　臨床検査技師
小田嶋　静恵　　主任看護師

この度は、盛大なお祝の会を開いていただき、ありがとうございました♪
これからも、皆様と共にチーム江刺の一員として精進していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。